

## 江原先生、田中先生ご定年退職に寄せて

2023年3月末をもって、江原淳先生、田中稔先生がご定年で退職されます。江原先生は1987年（昭和62年）に本学商学部に入職されてから2001年に創立されたネットワーク情報学部に移られ、36年間在職されました。田中先生は1989年（平成元年）に本学経営学部に入職されてから同じく2001年にネットワーク情報学部に移られ、34年間在職されました。長きにわたりネットワーク情報学部での教育研究にご尽力いただきましたことに対して感謝申し上げるとともに、無事に定年を迎えられることをお喜び申し上げます。

江原先生、田中先生ともに本学部創立からのメンバーです。学部立ち上げに際して多大な貢献をしていただきました。また、江原先生は2013年（平成25年）に学部長に選出され2期4年を務められています。両先生ともに、2001年に入職した私にとっては20年以上ご指導いただいた先輩であり恩人であります。雑文となりますが、今この時に私の胸に思い出されることを書き留めることをお許しいただければと思います。

江原先生は、財団法人流通経済研究所及び専修大学商学部においてPOSデータ、ID-POSデータの活用研究に従事され、本邦におけるPOSシステムの研究に大きな功績を残されました。日本消費行動研究学会の設立発起人で2003年から2004年まで会長を務められました。本学部ではデータサイエンス教育に力を入れられて、データマイニング等の授業において機械学習を応用した先端的教育を行なわれてきました。

江原先生は、とにかく頭の回転が早く物事の表現や判断が的確であるという印象が私にはあります。私は江原先生のおっしゃられていることがその場では分からず、後から「そういうことだったか」と思い至ることがしばしばありました。学部長をお務めになっていた際には、舌鋒鋭く強いリーダーでありました。その一方、学生からの人気は高く、説明が丁寧で優しいという評判でした。学生愛に溢れていたことは、教授会や教務委員会での江原先生のご発言の端々から感じ取ることができました。ネットワーク情報学部の学生は、きちんと教育すれば必ず伸びていくというお話を何度かお聞きした記憶があります。

田中先生は、現在本学部に所属する教員の中で、私が直接授業で指導を受けた最後の先生となります。私は当時、経営学部情報管理学科に所属する学生で、田中先生は統計学の授業を担当されていました。統計学の授業は1年次配当で、私は田中先生とは別の先生のクラスを履修していたのですが、出来が悪くて落第する始末。再履修で田中先生の教えを受けました。田中先生は教科書を使わず、授業の際には藁半紙1枚の資料を配られるのですが、これが本当に分かりやすいものでした。「最初からこう説明してくれればよかったじゃないか」と自分の出来の悪さを棚に上げて、そう思ったものです。ちなみに今でも統計学には苦手意識があります。

2001年に入職した私にとっては、故石原先生（2015年ご逝去）が、ある意味指導役となってくださっていました。ちなみに石原先生は、私の卒業研究審査委員のお一人で、2001年に経営学部に入職されたばかりでした。その石原先生の指導役が田中先生になります。石原先生は、しばしば「田中の親分」という表現で田中先生への敬愛を示されていました。石原先生は私に教員生活の（表裏にわたる）あれこれを教えてくださいましたが、それらは昔研究室が同室であった田中先生から伝授されたことだと聞きました。昔の2人で研究室をシェアしていた時代は不都合なことも多かった一方で、楽しいこともあっただろうと想像します。

江原先生、田中先生のお二人は、ネットワーク情報学部創立以前から専修大学で教育研究に尽力され、学部の創立と発展に貢献してくださいました。私を含め、本学部所属教員の多くが様々な形でお世話になりました。ここにあらためて感謝の意を表明させていただきたいと思います。今後とも学部の教育研究に対してご指導をいただければ幸いです。

江原先生、田中先生、どうもありがとうございました。